

平成 22 年 4 月 12 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18606004

研究課題名 (和文) 危機言語ツングース諸語に関する記述言語学的研究

研究課題名 (英文) Descriptive study of the endangered Tungusic languages

研究代表者

風間 伸次郎 (KAZAMA SHINJIRO)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：50243374

研究成果の概要 (和文)：

エウエン語、ソロン語、ウデヘ語、ナーナイ語、ウルチャ語に関する 12 冊のテキスト集を刊行することができた。そのうち 3 冊には文法概説を付した (ウデヘ語、ナーナイ語、ウルチャ語)。国内の研究所機関ならびに記述言語学に関わる諸研究者に発送した。語り手と現地教育機関等にも配布した。文法的な問題に関して、9 編の論文を発表し、比較言語学の問題に関して、論文を 2 編発表した。言語学会において 1 度学会発表を行い、一般に公開されたシンポジウムでも 1 度発表を行った。

研究成果の概要 (英文)：

In these years I have published twelve collections of texts of oral literature of the Tungusic languages (Ewen, Solon, Udihe, Nanay, and Ulcha languages). Among them, on the three books I attached the sketch of grammar (Udihe, Nanay, and Ulcha languages). I sent these books to the native speakers and the schools in the villages, and to the researchers and institutes in Japan. I have written 9 papers on the grammatical problems and 2 papers on the comparative problems in these languages.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	800,000	0	800,000
2007 年度	700,000	0	700,000
2008 年度	1,100,000	0	1,100,000
2009 年度	1,000,000	330,000	1,330,000
年度	0	0	0
総計	3,600,000	330,000	3,930,000

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：基盤研究 (C)・言語学

キーワード：ツングース諸語、危機言語、記述研究、言語テキスト、テキストコーパス

1. 研究開始当初の背景

ツングース系の諸言語は、中国東北部ならびにロシア極東地方、シベリアに分布し、11 ほどの言語からなる。ペレストロイカでソ連邦が崩壊するまで、その研究はもっぱらロシ

ア人によってなされてきた。その成果は、『満洲ツングース諸語比較辞典』(Srvnittel'nyj slovar' tunguso-man'chzhurskikh jazykov) をはじめとする文献にまとめられている。しかしその研究は、エウエンキー語、ナーナイ語な

どにおいては一定以上の記述があるものの、他の言語、たとえばウルチャ語などに関しては、文法書と語彙集を兼ねたものが1冊刊行されているにすぎない、というような状況がある。CD など、音声資料を付した研究は少なく、ロシア国外の研究者にとっては、いろいろな面でその実態をつかむことが難しかった。加えて、ロシアの言語研究者の記述は総じて形態論に偏っており、母音の長短など、ロシア語にない音の区別の記述が正確でないなど、いくつかの問題点があった。中国での研究はさらに遅れており、1980年代に入ってやっと『簡志』(文法概説)のシリーズが刊行されたものの、その記述の学問的水準は低い。

日本では、清国を建てた満洲族の言語である満洲語の研究に関しては、すでに戦前より東洋史の分野でも研究が進んでいた。戦後は、アルタイ諸言語全般に広い関心を持ち研究を展開した服部四郎をはじめとする研究者たちによって、日本語との系統的問題への関心からツングース諸語に強い関心が注がれてきた。その中であって池上二良は満洲語の研究を進める一方で、サハリンから戦後に網走などの地に引き揚げてきたウイルタの方々から実地調査を行い、その研究を進めてきた。その成果は『ツングース語研究』、『満洲語研究』(共に汲古書院刊)をはじめとする文献にまとめられている。

その後池上の研究は、北大で池上に学んだ津曲敏郎、さらに津曲に学んだ本研究申請者(風間)によって引き継がれてきた。津曲は1988年に科研費による現地調査隊を組織し、中国東北部のツングース語であるソロン語の調査を行った。翌年、天安門事件に起因する問題で現地調査に困難が生じたものの、その時にペレストロイカが進行中であったロシアに調査地を変え、3年間の継続的な調査

を行った。

本研究申請者は上記の1988年の最初の調査に参加して以降、自分の科研費等でも実地調査を行うようになり、今年まで一貫して継続した調査を続けてきた。大学の春休み、夏休みの期間に毎年調査に出かけ、これまでロシアで40回以上、中国で5回の現地調査を行ってきた。その成果は主に科研の報告書の形で、『ツングース言語文化論集』というシリーズとして刊行してきた。このシリーズは池上、津曲、風間の研究成果を刊行してきたものである。これは主に現地調査によって得た民話や伝説などのテキスト類(巻にもよるが、逐語訳、英訳、音声CDなどが付されている)、語彙集、文法概説などからなっている。うち39冊が本研究申請者によるものであり、さらに2冊に共著者として加わっている。本研究申請者は、ツングースの11ほどの言語のうち、ソロン語、ネギダル語、エウエン語、ウデヘ語、オロチ語、ヘジェ語、ナーナイ語、ウルチャ語、シベ語の現地調査を行ってきた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、実地調査によりツングース諸語を記録し、その音韻、文法等の諸特徴を分析し、その成果を整理・刊行することである。ツングース諸語は中国東北部ならびにロシア極東地方、シベリアに分布する言語で、いわゆるアルタイ諸言語に属する言語である。日本海の対岸という地理的位置からもうかがえるように、日本語や朝鮮語とも、顕著な類似が見られることがしばしば指摘されている。しかも60歳以下の年齢の話者は少なく、いわば消滅の危機に瀕している言語群である。このようにツングース諸語の話者自体がますます減りつづけている今、できるだけ早く詳細かつ正確な言語学的記録を行うことが急務である。

3. 研究の方法

- ・夏休みおよび春休みの期間に、ロシアおよび中国への現地調査を行う。
- ・学期期間中は、在学のコンサルタントより、謝金によって語彙調査を行う。
- ・学園祭期間等を利用して、コンサルタントを招聘し、書き起こしや分析を行う。
- ・謝金アルバイトにより、先行研究や既存資料の入力、電子コーパス化を行う。
- ・民族学的資料である写真・映像も含め、テキスト資料および辞書の編集を行い、印刷・刊行する。

・印刷・刊行に際しては、さらに謝金により英訳や索引、音声 CD も作成し、質の高い資料に作り上げる。

4. 研究成果

エウエン語、ソロン語、ウデヘ語、ナーナイ語、ウルチャ語に関する 12 冊のテキスト集を刊行することができた。そのうち 3 冊には文法概説を付した(ウデヘ語、ナーナイ語、ウルチャ語)。国内の研究所機関ならびに記述言語学に関わる諸研究者に発送した。語り手と現地教育機関等にも配布した。文法的な問題に関して、9 編の論文を発表し、比較言語学的な問題に関して、論文を 2 編発表した。言語学会において 1 度学会発表を行い、一般に公開されたシンポジウムでも 1 度発表を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

① 風間伸次郎 「ニブフ語と近隣諸言語との類型的異同・言語接触について」(2009 年 3 月、『サハリンの言語世界』北大文学研究科公開シンポジウム報告書 北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター pp.127-144) 査読無

② 風間伸次郎 「オロチ語とウデヘ語の異同について」(2009 年 3 月、『語学研究所論集』14 号 東京外国語大学語学研究所 pp.1-13) 査読有

③ 風間伸次郎 「ツングース諸語の受身」(2009 年 3 月、『語学研究所論集』14 号 東京外国語大学語学研究所 pp.1-13) 査読有

④ 風間伸次郎 「ナーナイ語の非人称形動詞について」(2009 年 forthcoming、『アジア・アフリカの言語と言語学 4』、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所) 査読有

⑤ Shinjiro, KAZAMA The 'plural' markers in Udihe, *Ambiguity of Morphological and Syntactic Analyses*, Edited by Tokusu Kurebito, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA), Tokyo University of Foreign Studies, 229-246, Feb. 2008. 査読無

⑥ Shinjiro, KAZAMA The diachronic

development of the Group III of Tungusic languages, *Linguistic Typology of the North, vol. 1*, Edited by Tokusu Kurebito, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA), Tokyo University of Foreign Studies, 103-123, May, 2008.

⑦ 風間伸次郎 「ナーナイ語における語用論的研究」、『言語の研究 —ユーラシア諸言語からの視座—』、語学教育フォーラム 第 16 号、寺村政男・久保智之・福盛貴弘編、大東文化大学語学教育研究所 pp.159-168, 2008 年 10 月 査読無

⑧ Shinjiro, KAZAMA Alienable possession suffixes in Tungusic languages, *Linguistic Typology of the North, vol. 1*, Edited by Tokusu Kurebito, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA), Tokyo University of Foreign Studies, 125-140, 2008. 査読無

⑨ 風間伸次郎 「ウデヘ語の「複数」を示す要素について」、『環北太平洋の言語』第 14 号、津曲敏郎編、北海道大学大学院文学研究科 pp. 103-118, 2007. 査読無

⑩ Shinjiro, KAZAMA Rhetorical Questions with Interrogative Markers in Nanai. *Linguistic Informatics and Corpus Linguistics. (Linguistic Informatics VII)*. Y. Kawaguchi, T. Takagaki, N. Tomimori and Y. Tsuruga eds. 21st Century COE: Center of Usage-Based Linguistic Informatics Graduate School of Area and Culture Studies. Tokyo University of Foreign Studies, pp.305-321. 2007 年 査読無

⑪ 風間伸次郎 「ナーナイ語とウデヘ語の付属語について」(2007 年 9 月、『アジア・アフリカの言語と言語学 2』、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 pp.49-83) 査読有

⑫ 風間伸次郎 「ツングース諸語の三人称代名詞について」(2007 年 10 月、『東ユーラシア言語研究』第 2 集、大東文化大学 pp.173-184) 査読無

[学会発表] (計 1 件)

① 風間伸次郎 「ツングース祖語における接近音について」(日本言語学会 題 37 回大会、2008/11/29-30、金沢大学)

〔図書〕(計 12 件)

- ①風間伸次郎『Udihe Texts 6』(2010年3月、ツングース言語文化論集 47 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 259pp.)
- ②風間伸次郎『ナーナイの民話と伝説 12』(2010年3月、ツングース言語文化論集 48 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)
- ③風間伸次郎『ウルチャロ承文芸原文集 5』(2010年3月、ツングース言語文化論集 49 東京外国語大学)
- ④風間伸次郎『Udihe Texts 5』(2009年3月、ツングース言語文化論集 44 東京外国語大学 233pp.)
- ⑤風間伸次郎『Ewen Texts 2(A), (B)』(2009年3月、ツングース言語文化論集 45(A)(B) 東京外国語大学・北海道大学大学院文学研究科)
- ⑥風間伸次郎『Udihe Texts 4』(2008年3月、ツングース言語文化論集 42 東京外国語大学 234pp.)
- ⑦風間伸次郎『ナーナイの民話と伝説 11』(2008年3月、ツングース言語文化論集 40 北海道大学大学院文学研究科)
- ⑧風間伸次郎『ウルチャロ承文芸原文集 4』(2008年3月、ツングース言語文化論集 43 東京外国語大学)
- ⑨風間伸次郎『ソロンの民話と伝説 2』(2008年3月、トヤー氏と共著、ツングース言語文化論集 41 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)
- ⑩風間伸次郎『Udihe Texts 3』(2007年3月、ツングース言語文化論集 35 北海道大学大学院文学研究科)
- ⑪風間伸次郎『ナーナイの民話と伝説 10』(2007年3月、ツングース言語文化論集 36 北海道大学大学院文学研究科)
- ⑫風間伸次郎『ソロンの民話と伝説 1』(2007年3月(トヤー氏との共著)、ツングース言

語文化論集 37 北海道大学大学院文学研究科)

〔その他〕
ホームページ等

第 37 回金田一京助博士記念賞を受賞

6. 研究組織

(1) 研究代表者

風間 伸次郎

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：50243374